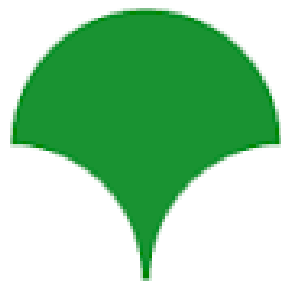


# 東京都における 結核の概況と対策



平成28年6月8日  
東京都 福祉保健局  
健康安全部 感染症対策課

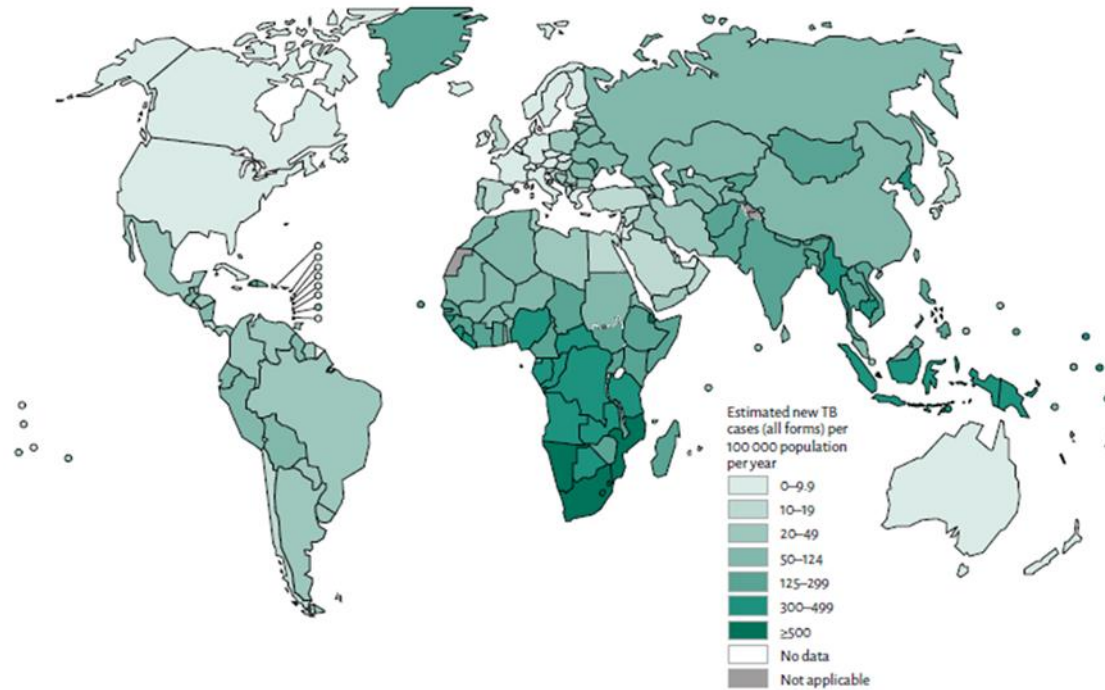
# 世界における結核の発生状況

## 患者数及び死亡者数

| 2014年 | 世界    | 日本      |
|-------|-------|---------|
| 患者数   | 960万人 | 19,615人 |
| 死亡者数  | 150万人 | 2,099人  |

## 結核の推定罹患率(※)

※罹患率(人口10万人当たり患者数)



100

10

高まん延国

低まん延国



# 東京都内の保健所(31か所)



| 地域   | 保健所の設置主体 | 保健所数 |
|------|----------|------|
| 23区  | 各区       | 23   |
| 市    | 八王子市、町田市 | 2    |
| 多摩地区 | 東京都      | 6    |
| 島しょ  | 東京都      | 1    |

# 平成26(2014)年の概況報告(1)

- 平成26(2014)年に報告された東京都の新登録結核患者数は2,533人に減少、結核罹患率(人口10万対)は平成6(1994)年以降初めて20を下回り18.9
- 全国における新登録結核患者数は19,615人、結核罹患率は15.4
- 東京都では平成16(2004)年以降11年連続、全国では平成12(2000)年以降15年連続して、罹患率の減少傾向が継続
- 東京都の結核罹患率は、減少傾向が続いているものの、全国でワースト5位であり、依然として全国値より高い状況が継続
- 年齢階級別にみた東京都の結核罹患率は、5~14歳の年齢階級以外で全国値より高く、昨年(2013年)に比べ、0~4歳で0.3ポイント、15~19歳で0.4ポイント、20~29歳で2.6ポイント上昇


# 平成26(2014)年の概況報告(2)

- 新登録結核患者の年齢階級別構成割合では高齢者層が増加し、60歳以上の患者が東京都で57.3%、全国では71.4%
- 都内の新登録有症肺結核患者が初診から診断までに要した期間は1か月未満が68.0%と多く占めるが、3年前(2011年)より3.1%低下
- 発病から診断までに要した期間に大きな変化は見られず、発病後1か月未満で診断された患者は21.1%
- 結核による死亡率は平成6(1994)年以降初めて全国値を下回り1.6
- 新登録結核患者において外国出生患者が占める割合は東京都、全国とも増加、東京都における割合は全国より高い状況が継続

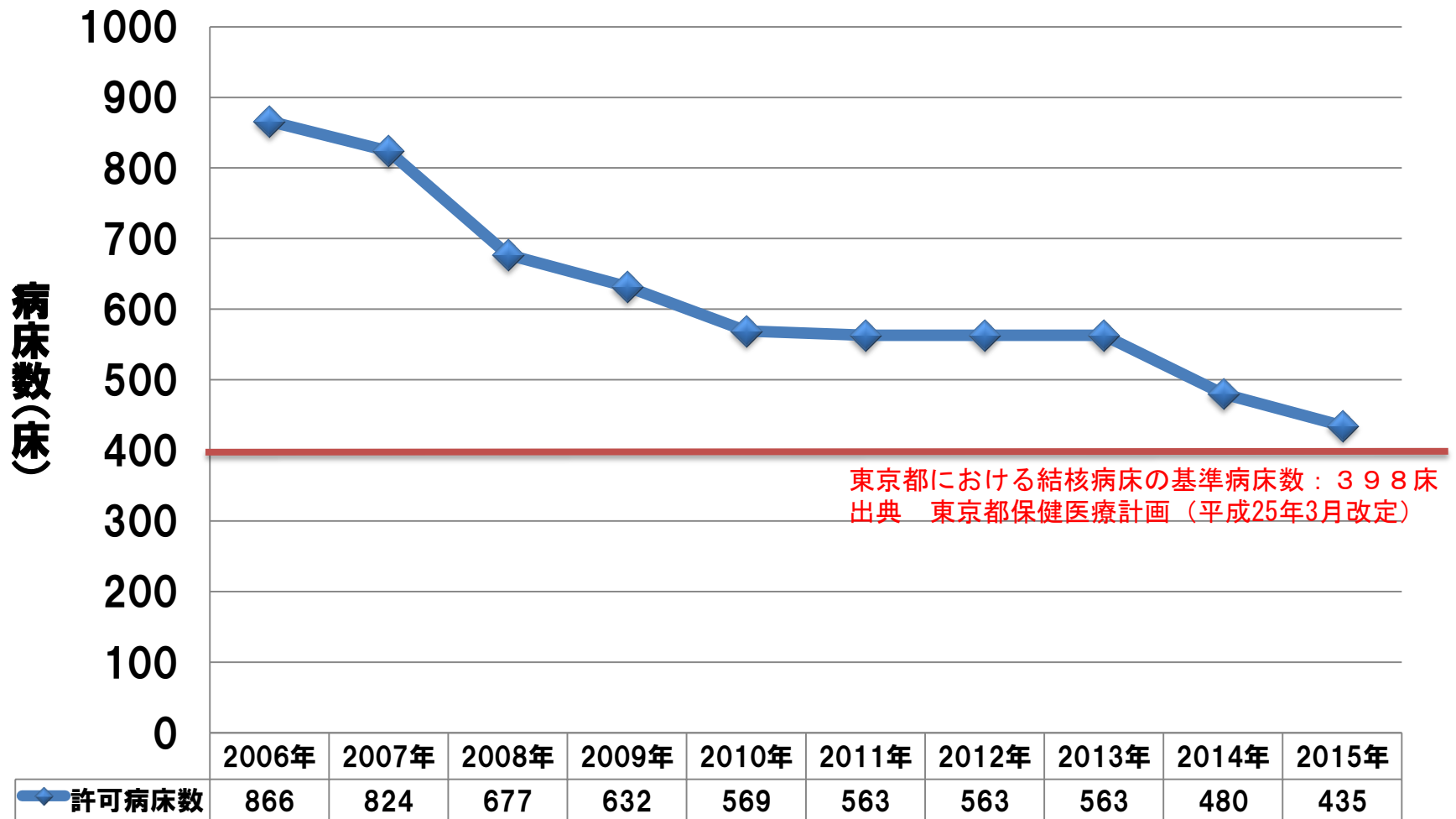
# 東京都結核予防推進プラン（2012年7月改定）

|   | 8つのプラン         |
|---|----------------|
| 1 | BCG接種の徹底       |
| 2 | 患者の早期発見        |
| 3 | 適切な診断・検査の徹底    |
| 4 | 重点対象者への対策の強化   |
| 5 | 適切な治療の確保、徹底    |
| 6 | 治療が困難な結核患者への対応 |
| 7 | サーベイランスの強化     |
| 8 | 人材育成           |

# 東京都結核予防推進プラン2012に定める 目標値と達成状況について

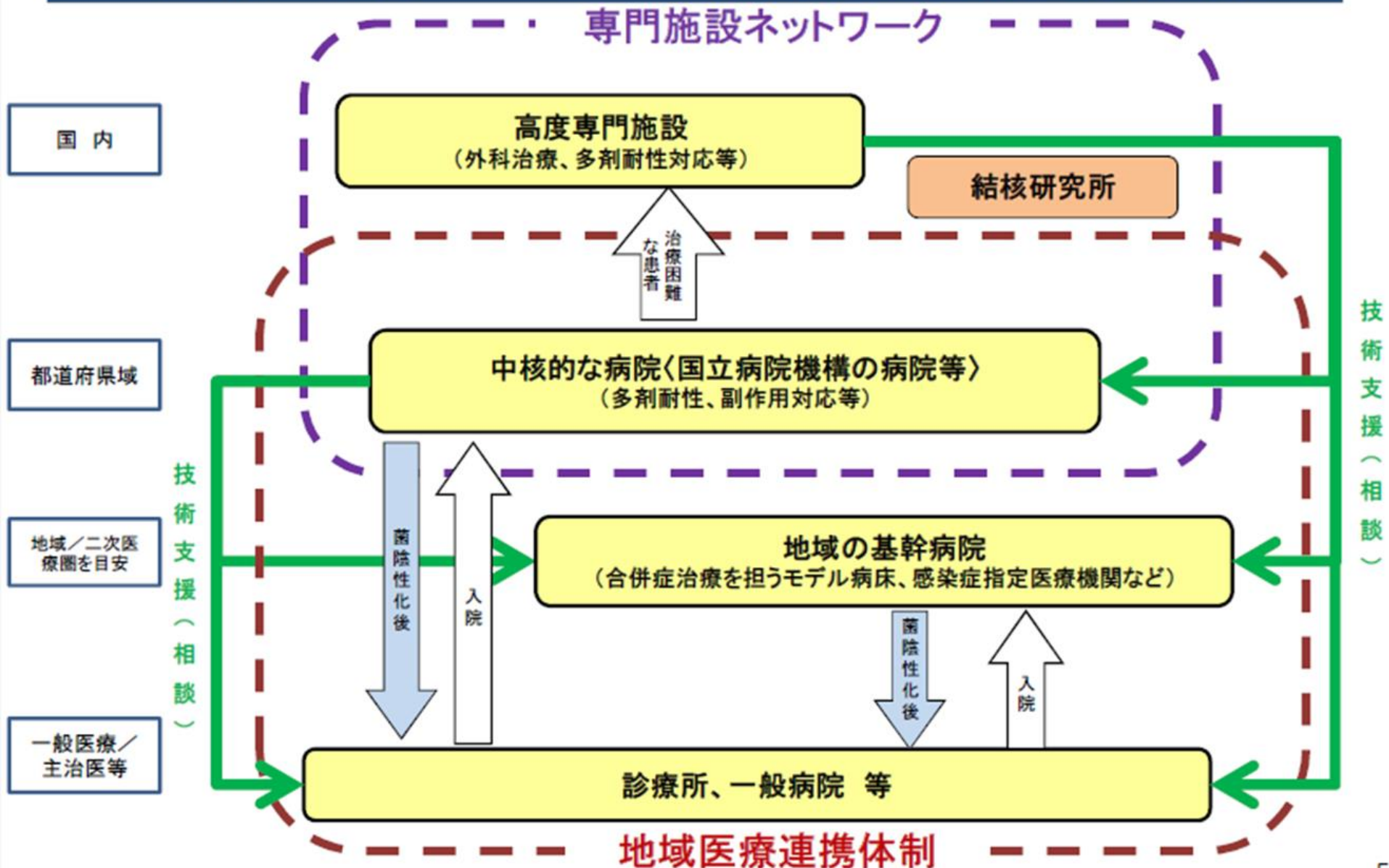
|   |   | 国指針の<br>目標値 | 都の目標値 | 現 状   |       |       |       |         |
|---|---|-------------|-------|---|-------|-------|-------|---------|
|   |   |             |       | H22   | H23   | H24   | H25   | H26（暫定） |
| 1 | BCG接種対象年齢に<br>おける接種率                        | 95%以上       | 99%以上 | 96.1%   | 95.1% | 94.3% | 88.1% | 95.1%   |
| 2 | 人口10万人対り患率                                  | 15以下        | 19以下  | 23.1  | 22.9  | 21.7  | 20.1  | 18.9    |
|   |   |             |       | 4.9% / 年 減  |       |       |       |         |
| 3 | 全結核患者に対する<br>DOTS実施率                        | 95%以上       | 95%以上 | —   | 93.6% | 97.7% | 97.5% | 97.1%   |
| 4 | 潜在性結核感染症の<br>治療を開始した者の<br>うち治療を完了した<br>者の割合 | 85%以上       | 85%以上 | —   | 90.4% | 89.7% | 86.9% | 84.4%   |
| 5 | 治療失敗・脱落率                                    | 5%以下        | 5%以下  | 4.0%  | 4.2%  | 4.3%  | 3.1%  | 4.4%    |
| 6 | 肺結核患者のうち再<br>治療を受けている者<br>の割合               | 7%以下        | 7%以下  | 7.1%  | 7.7%  | 7.8%  | 6.3%  | 6.6%    |

# 東京都における結核病床数の推移



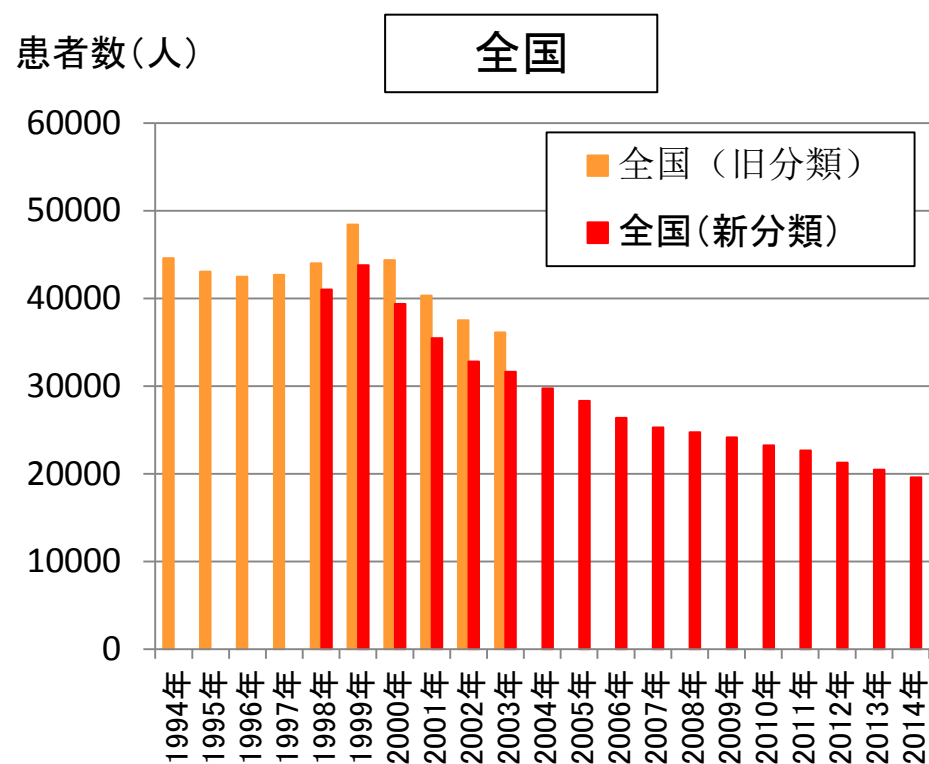
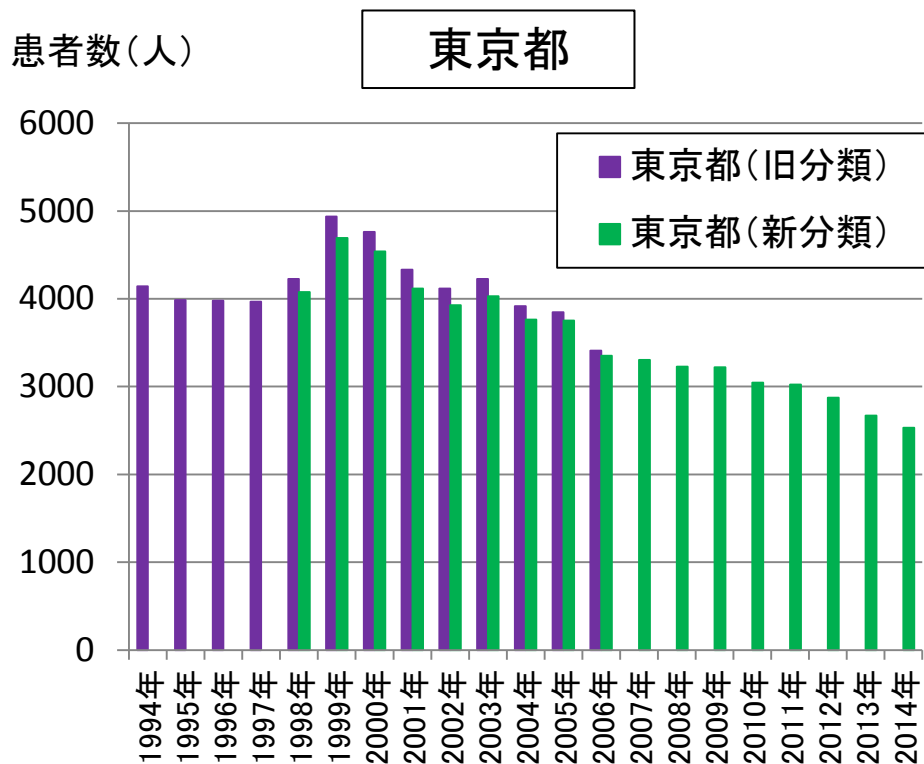


# 医療の確保について（結核地域医療連携体制）



# 新登録結核患者数の年次推移

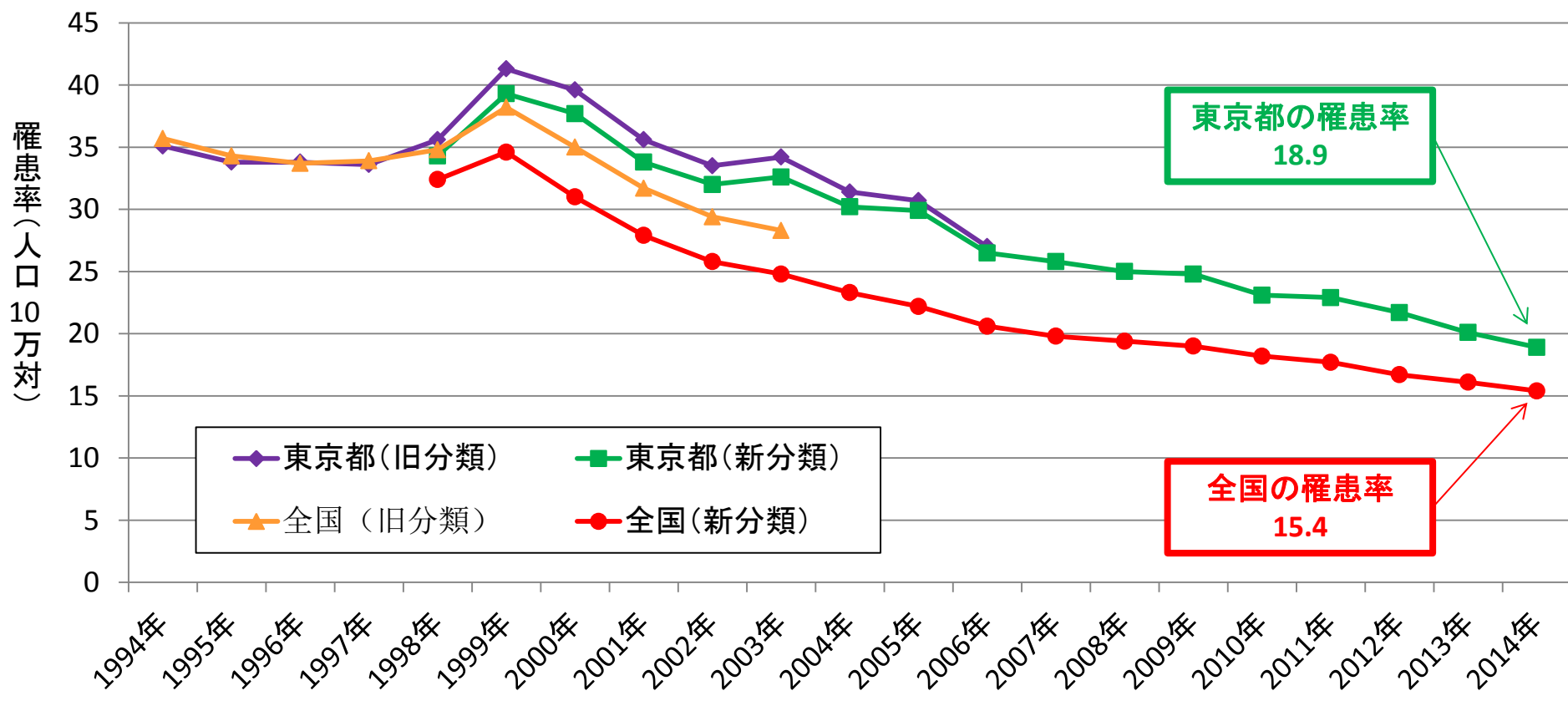
- 平成26（2014）年に報告された東京都の新登録結核患者数は2,533人に減少
- 全国における新登録結核患者数は19,615人



注：旧分類は非定型抗酸菌による患者数を含むが、新分類では含まない。  
 2004年より全国の非定型抗酸菌陽性数は非公開となり、東京都でも2007年より新分類のみの登録となった。

# 罹患率の年次推移

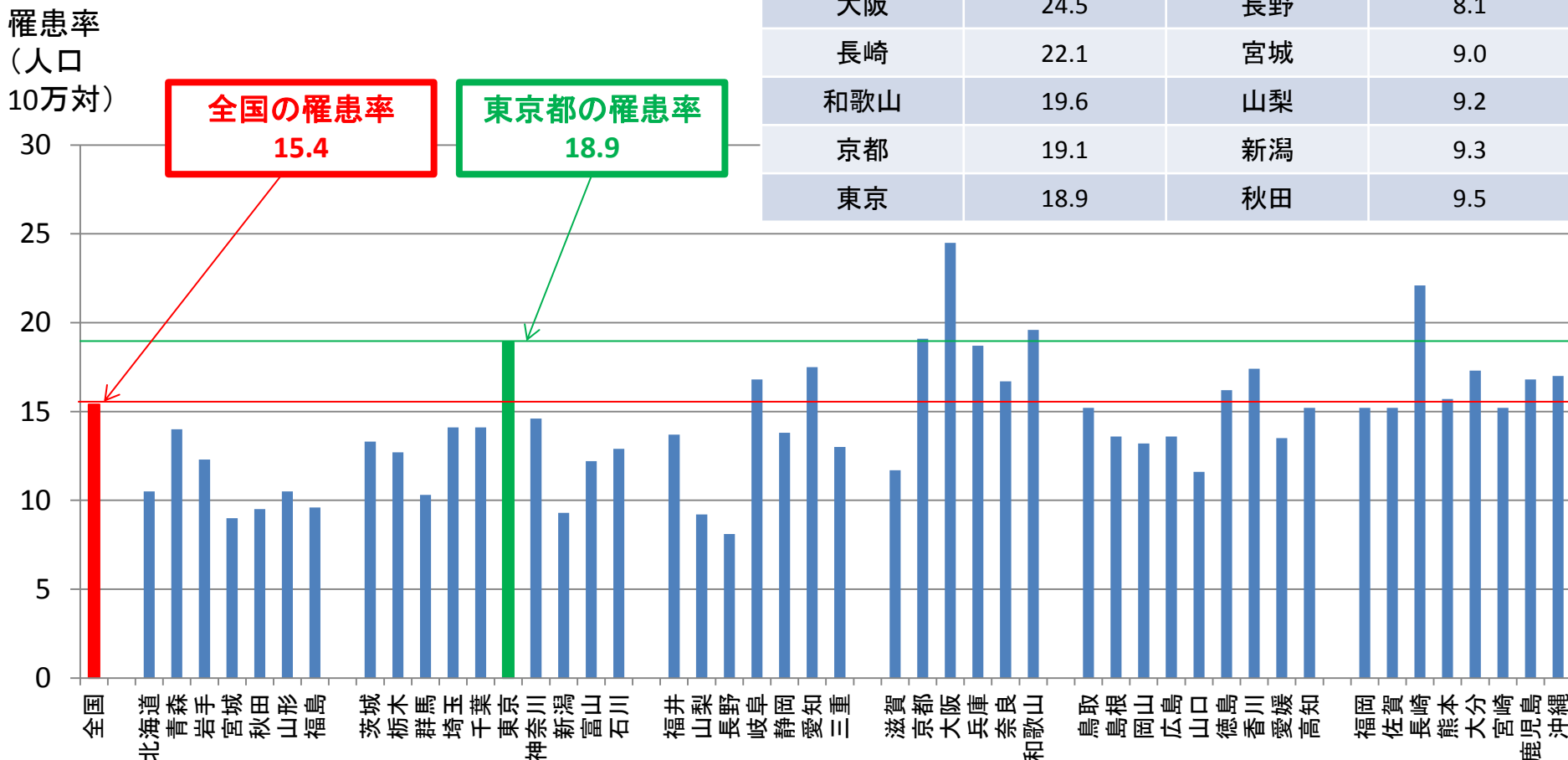
- 平成26（2014）年に報告された東京都の結核罹患率は平成6（1994）年以降初めて20を下回り18.9
- 全国における結核罹患率は15.4
- 東京都では平成16（2004）年以降11年連続、全国では平成12（2000）年以降15年連続して罹患率の減少傾向



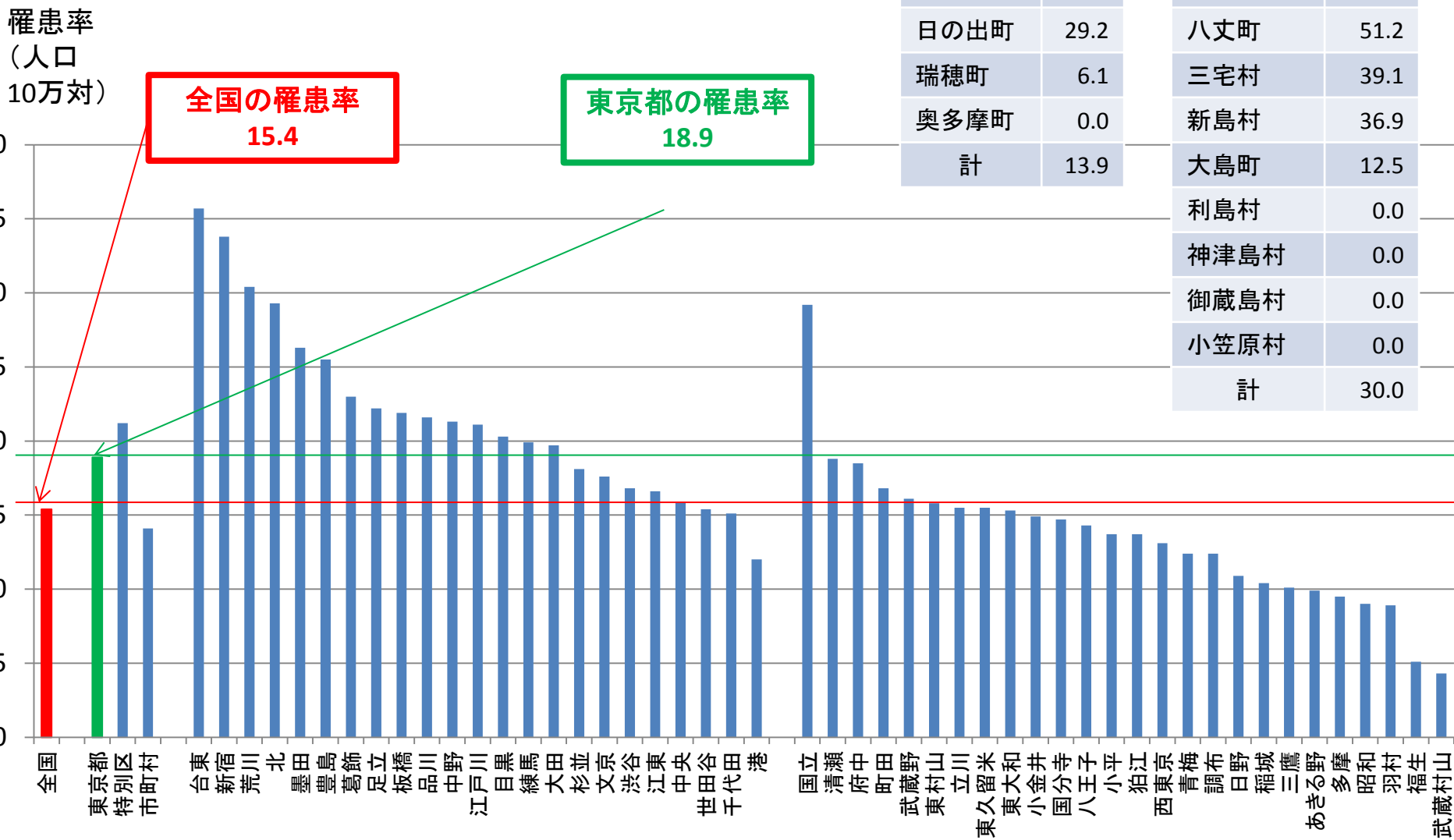
# 都道府県別新登録結核患者罹患率

- 東京都の結核罹患率は、減少傾向が続いているものの、全国でワースト5位と依然として全国値より高い状況

| 罹患率が高い上位5都府県 |      | 罹患率が低い上位5県 |     |
|--------------|------|------------|-----|
| 大阪           | 24.5 | 長野         | 8.1 |
| 長崎           | 22.1 | 宮城         | 9.0 |
| 和歌山          | 19.6 | 山梨         | 9.2 |
| 京都           | 19.1 | 新潟         | 9.3 |
| 東京           | 18.9 | 秋田         | 9.5 |



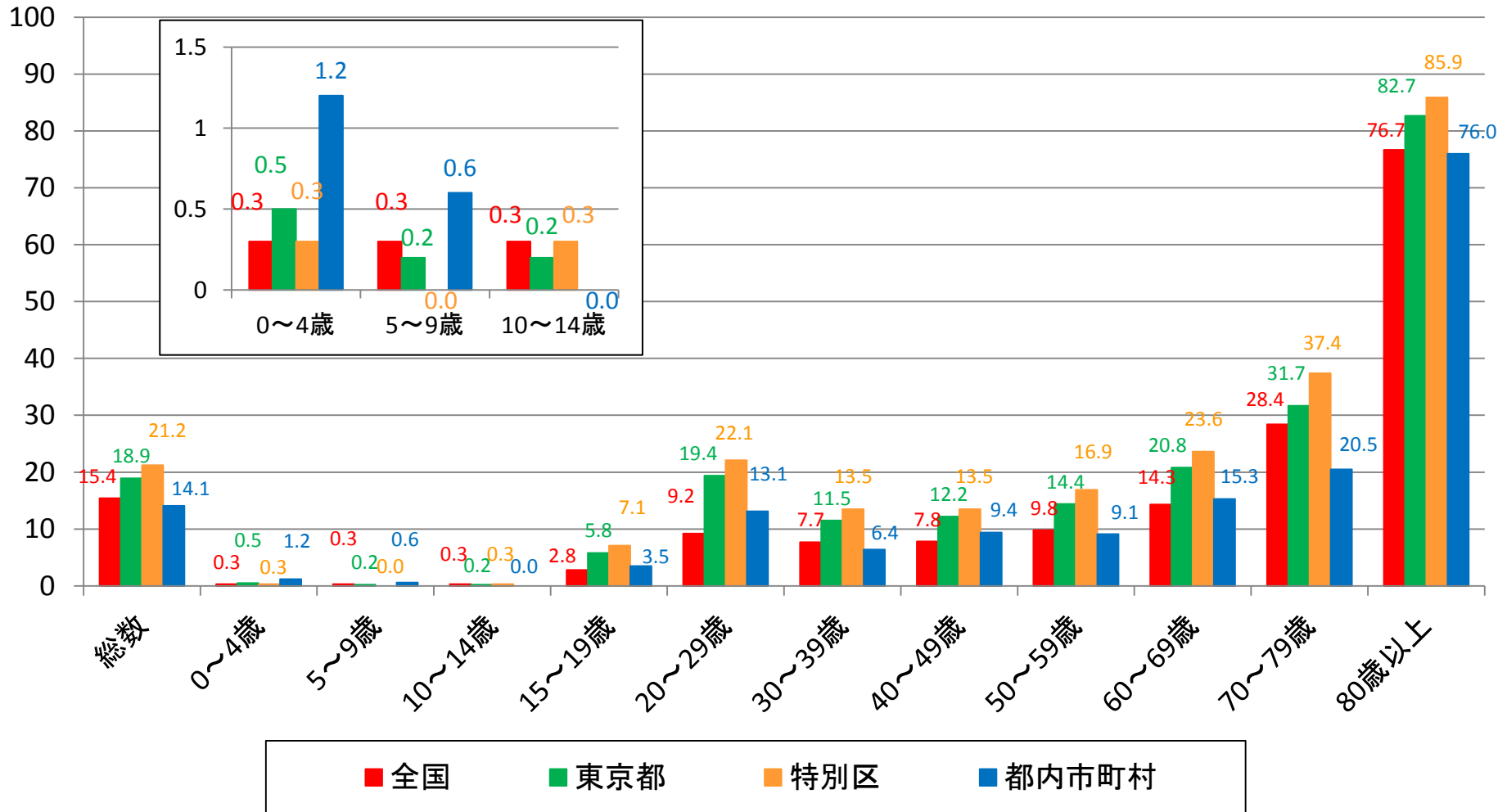
# 特別区及び市町村別新登録結核患者罹患率



# 年齢階層別新登録結核患者罹患率

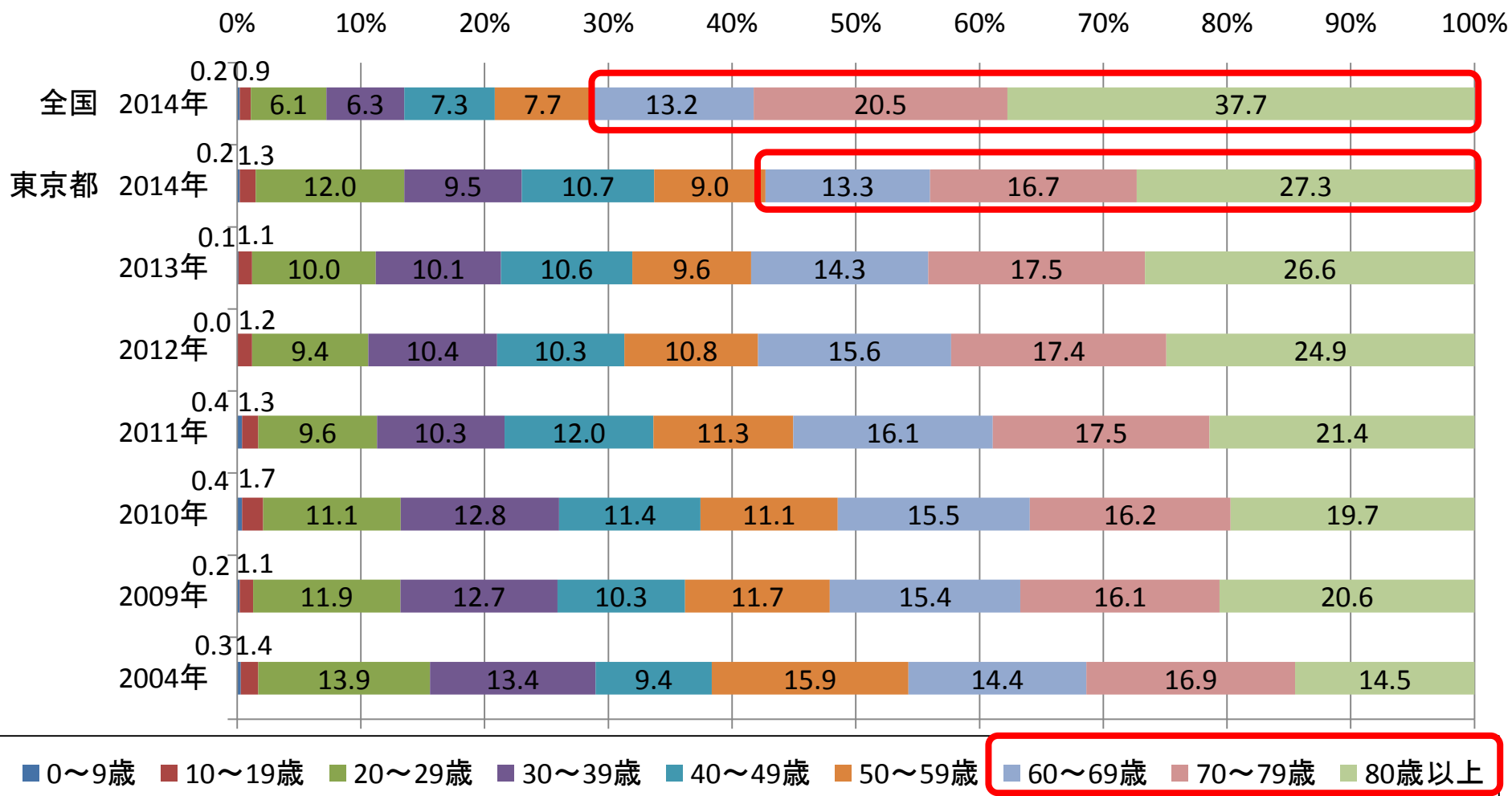
- 年齢階級別にみた東京都の結核罹患率は、5～14歳以外のすべての年齢階級で全国より高値

罹患率  
(人口10万対)



# 年齢階層別構成割合年次推移

- 新登録結核患者の年齢階級別構成割合では高齢者層が増加し、60歳以上（下図赤枠）の患者が東京都で57.3%、全国では71.4%



# 発見方法別新登録活動性肺結核患者の割合

- ① 発見方法では、医療機関受診が最多、次いで健康診断が多い
- ② 健康診断では、定期健康診断、接触者健康診断、個別健康診断の順に多い
- ③ 定期健康診断では、職場、住民、学校での健診の順に多い
- ④ 接触者健康診断では、家族健診が4割以上

④ 接触者健康診断の内訳  
(n = 85)

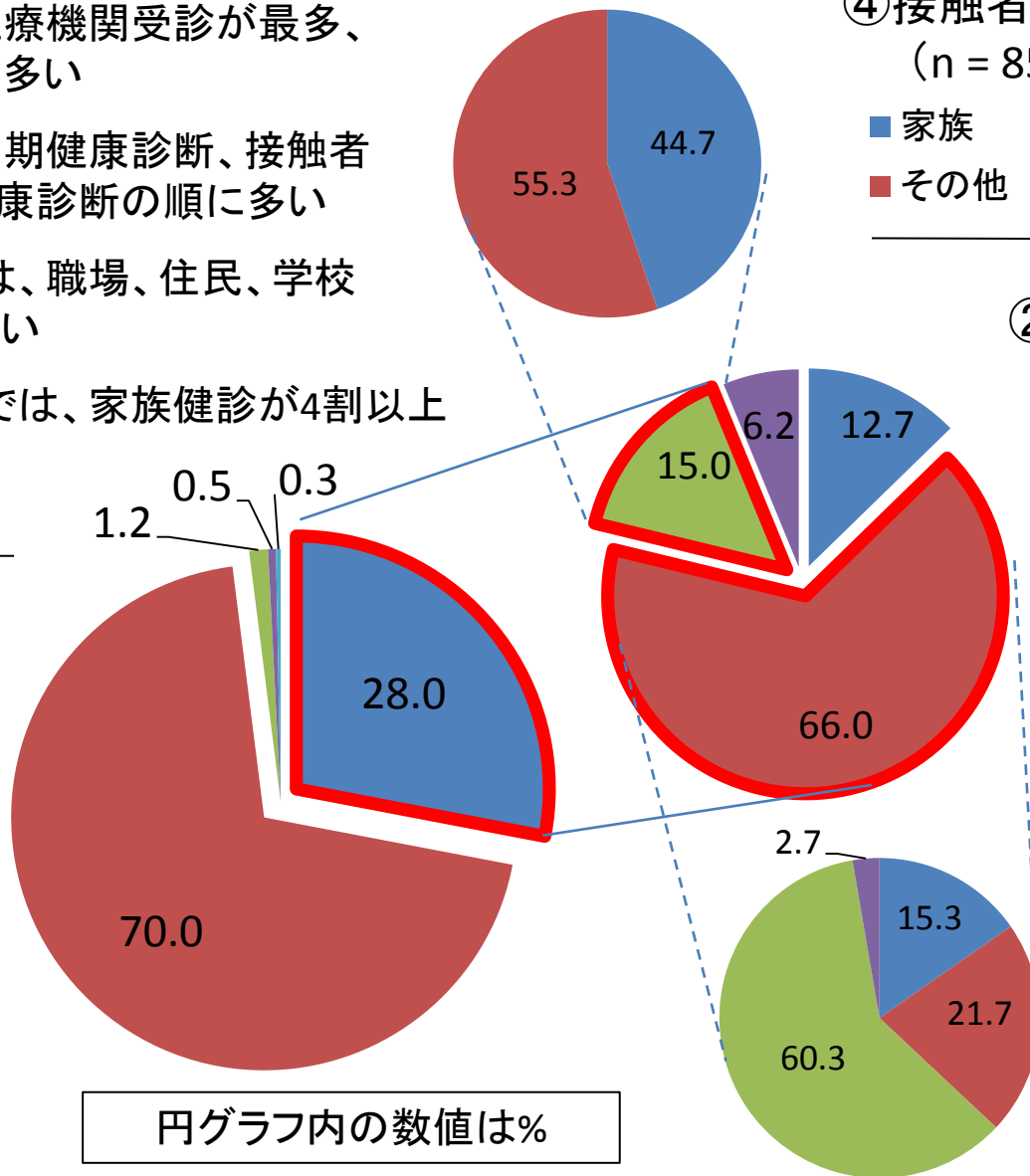
- 家族
- その他

② 健康診断の内訳  
(n = 565)

- 個別健康診断
- 定期健康診断
- 接触者健康診断
- その他の集団検診

① 発見方法の内訳  
(n = 2020)

- 健康診断
- 医療機関受診
- その他
- 不明
- 登録中の健康診断

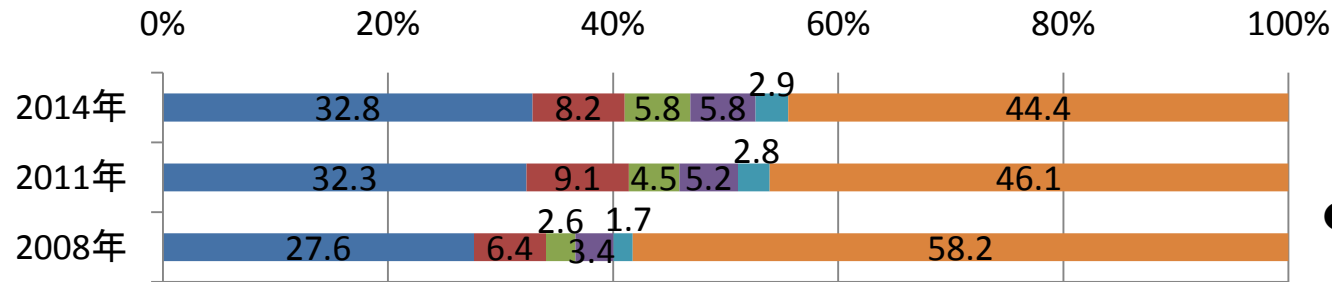


円グラフ内の数値は%



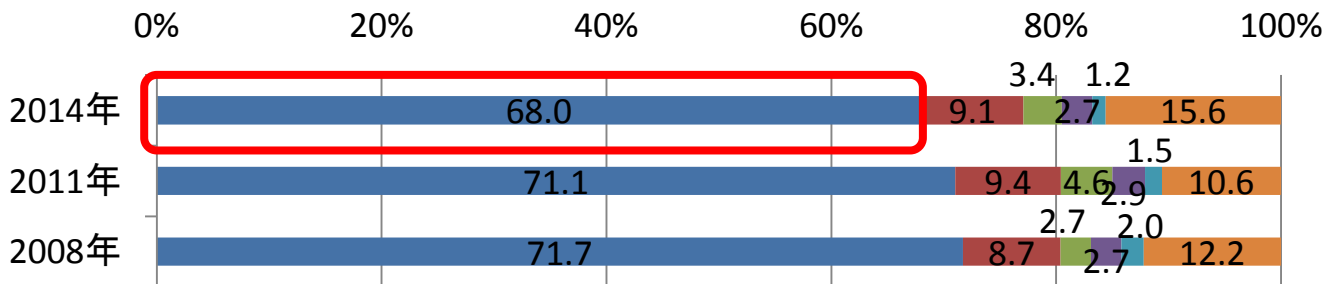
# 新登録有症肺結核患者の発病から診断間での期間

《発病から初診までの期間》



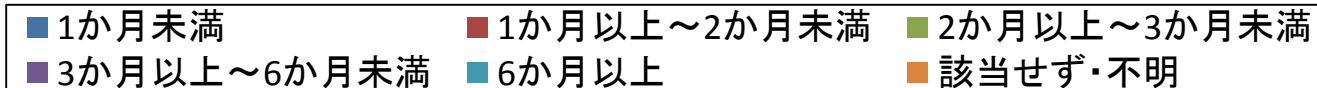
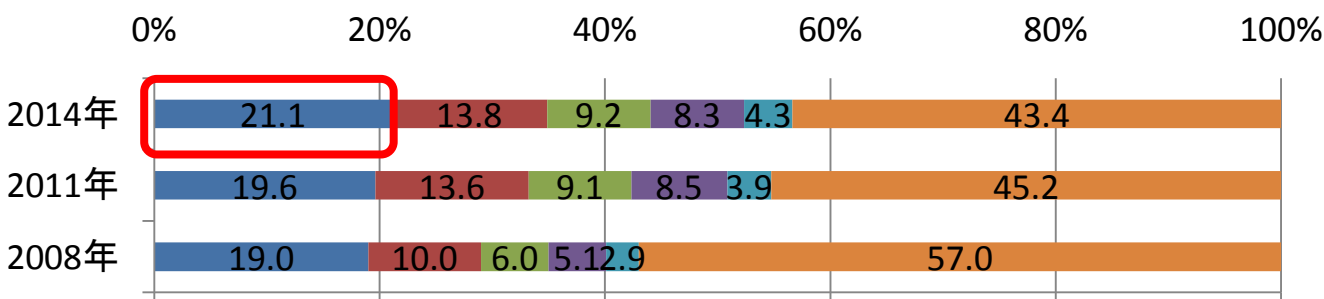
- 都内の新登録有症肺結核患者が初診から診断までに要した期間は1か月未満が68.0%を占めるが（左中図の赤枠）、3年前（2011年）より3.1%低下

《初診から診断までの期間》



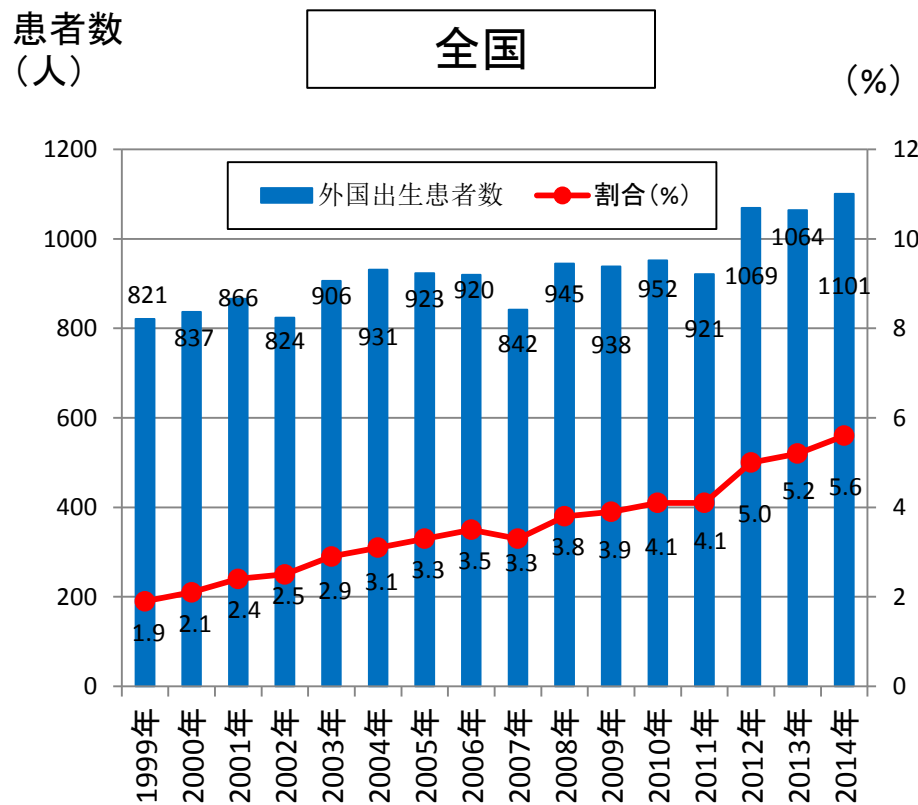
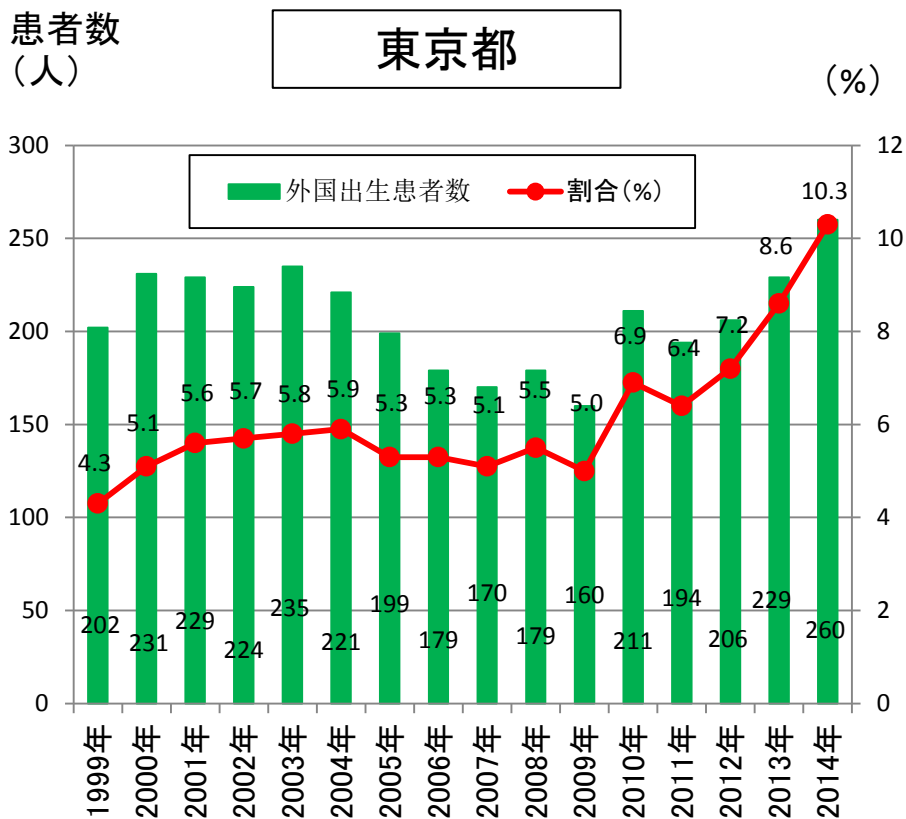
- 発病から診断までに要した期間に大きな変化はなく、発病後1か月未満で診断された患者は21.1%（左下図）

《発病から診断までの期間》



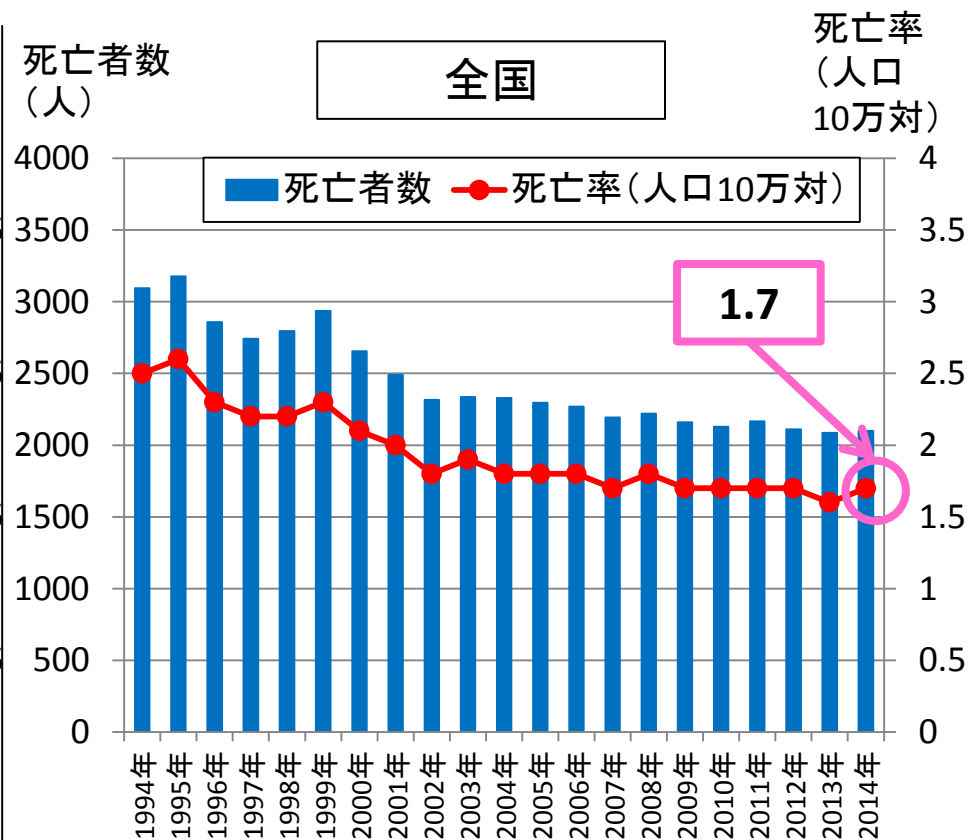
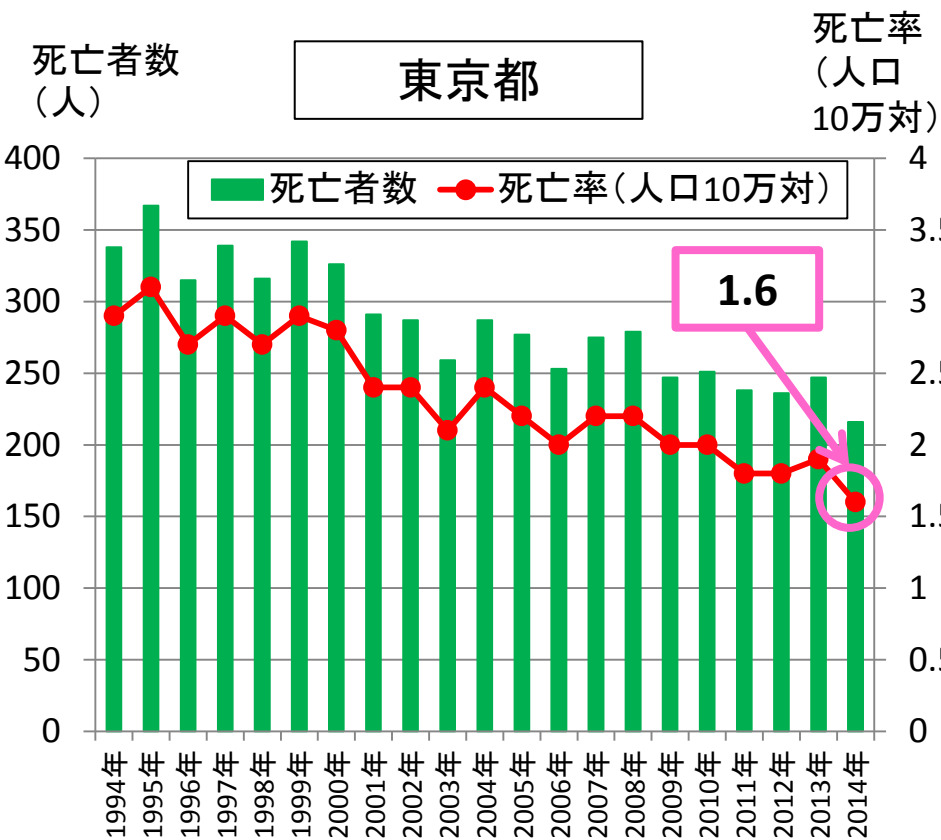
# 新登録結核患者数における外国出生患者数の年次推移

- 新登録結核患者において、外国出生患者が占める割合は、東京都・全国とも増加
- 東京都における割合は、全国より高い状況が継続



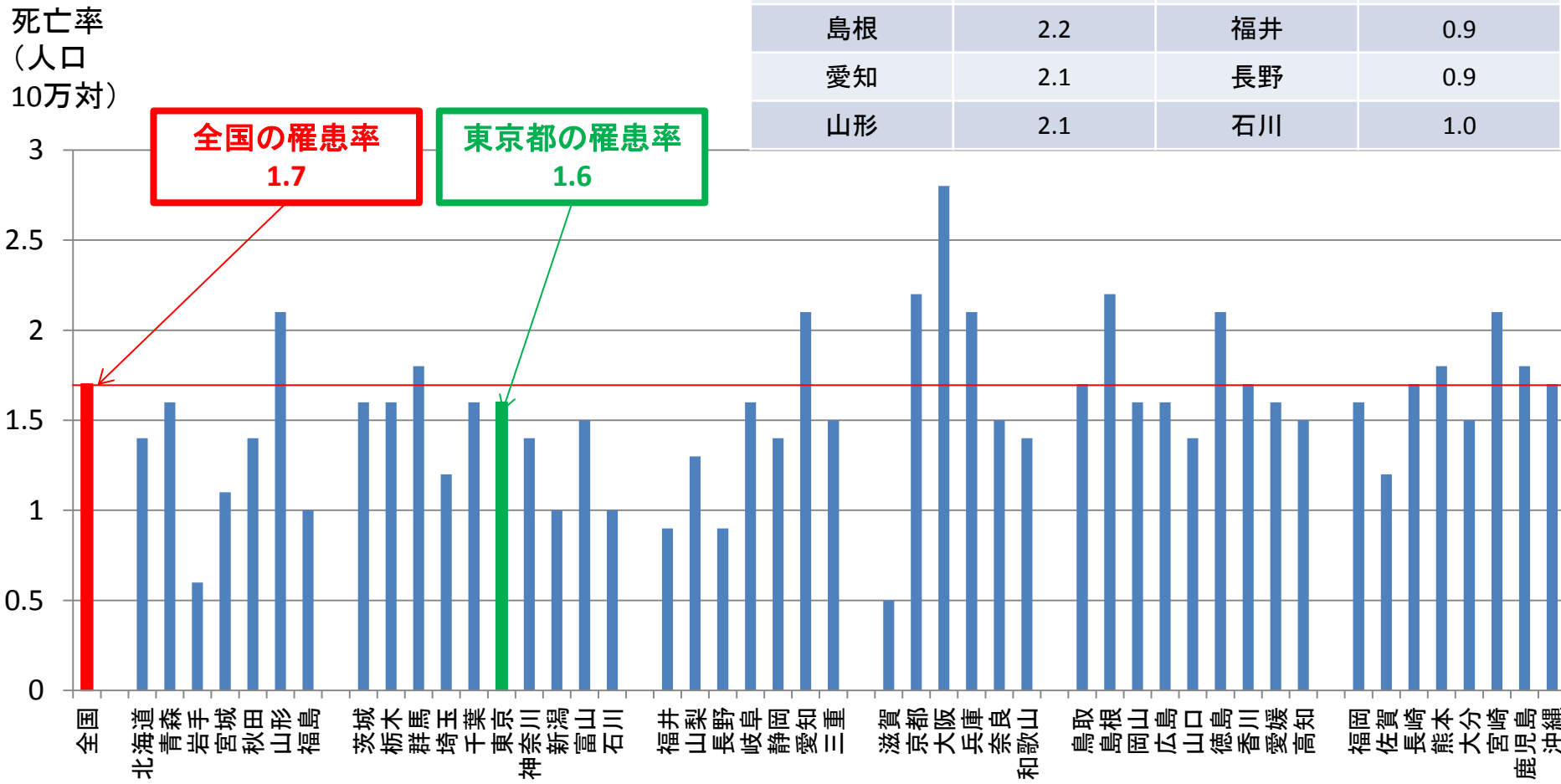
# 結核による死亡者数及び死亡率の年次推移

- 平成26(2014)年における東京都の結核による死亡率は、1.6で、平成6(1994)年以降初めて、全国値(1.7)を下回った



# 都道府県別結核死亡率

| 死亡率が高い上位5都府県 |     | 死亡率が低い上位5県 |     |
|--------------|-----|------------|-----|
| 大阪           | 2.8 | 滋賀         | 0.5 |
| 京都           | 2.2 | 岩手         | 0.6 |
| 島根           | 2.2 | 福井         | 0.9 |
| 愛知           | 2.1 | 長野         | 0.9 |
| 山形           | 2.1 | 石川         | 1.0 |



(注) 死亡率の順位は、小数点以下第2位で四捨五入し、同率の場合にはさらに下位まで算出して順位を決定

# 医療費公費負担の実績(1)

《法第37条の2医療費公費負担申請状況》

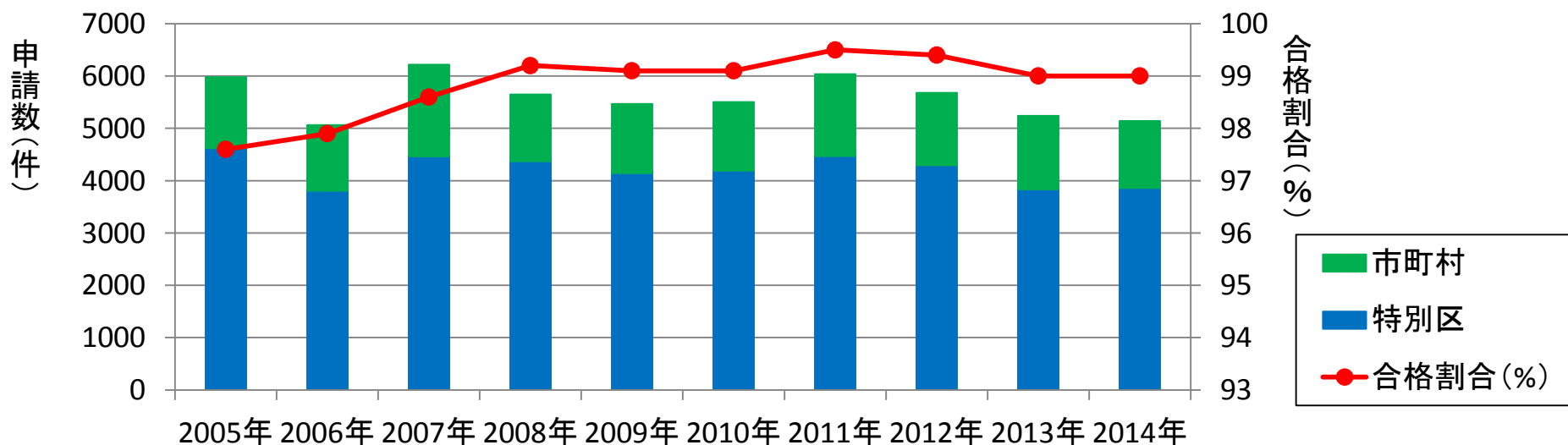
平成26(2014)年度において、感染症  
法第37条の2に基づく医療費公費負担  
申請は5,139件

そのうち、99%に当たる5,088件が合格  
(右上表)

過去10年間の申請数と合格割合(%)

の推移は下図を参照

|           |      | 総数    | 特別区   | 市町村   |
|-----------|------|-------|-------|-------|
| 申請        |      | 5,139 | 3,856 | 1,283 |
| 合格        |      | 5,088 | 3,818 | 1,270 |
| 不合格<br>理由 | 総数   | 51    | 42    | 9     |
|           | 治療不要 | 38    | 32    | 6     |
|           | 他の疾患 | 13    | 10    | 3     |
| 医療内容の変更   |      | 132   | 94    | 38    |



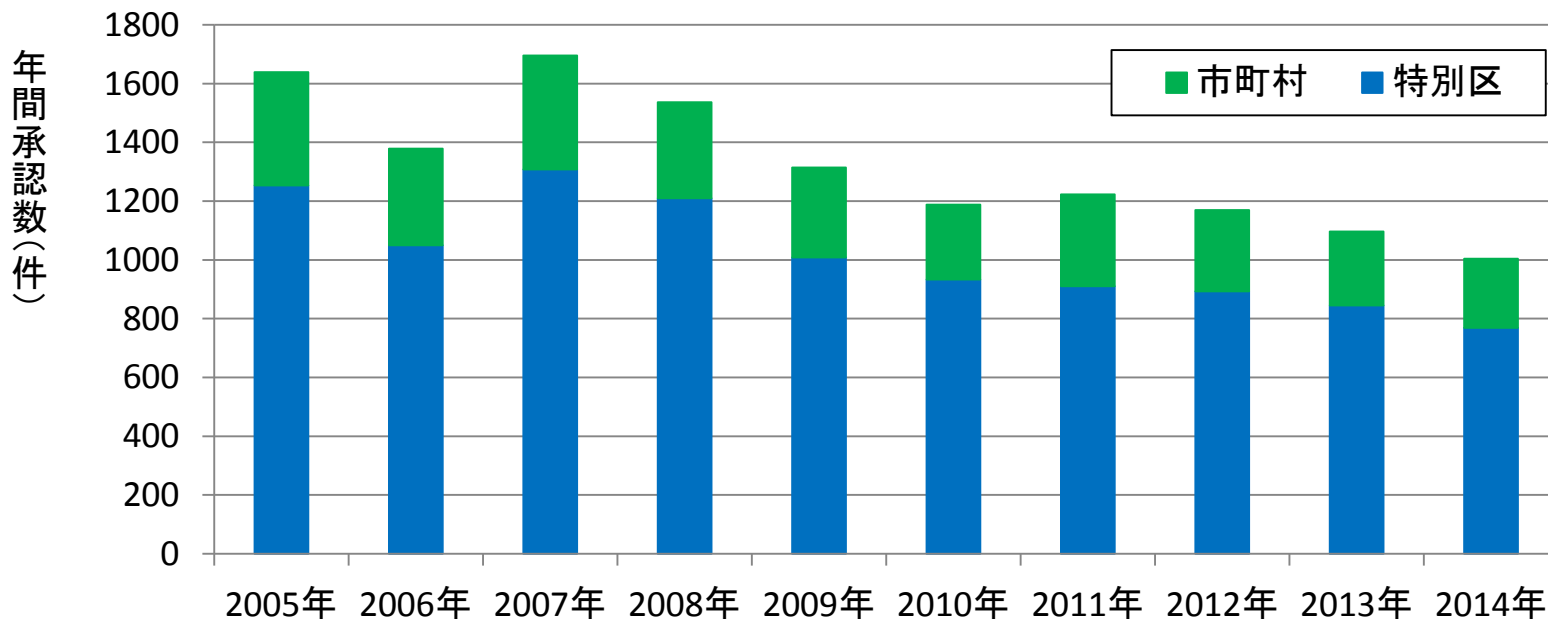
# 医療費公費負担の実績(2)

## 《勧告入院患者数》

平成26(2014)年度において、  
感染症法に基づく勧告入院の  
患者数(年間承認数)は1,004件  
(右上表の赤枠)

|                 | 総数    | 特別区 | 市町村 |
|-----------------|-------|-----|-----|
| 前年度末現在          | 180   | 143 | 37  |
| 年間承認数           | 1,004 | 769 | 235 |
| 年間解除数           | 1,036 | 808 | 228 |
| 平成26(2014)年度末現在 | 148   | 104 | 44  |

過去10年間の年間承認数の推移は下図を参照



# 医療費公費負担の実績(3)

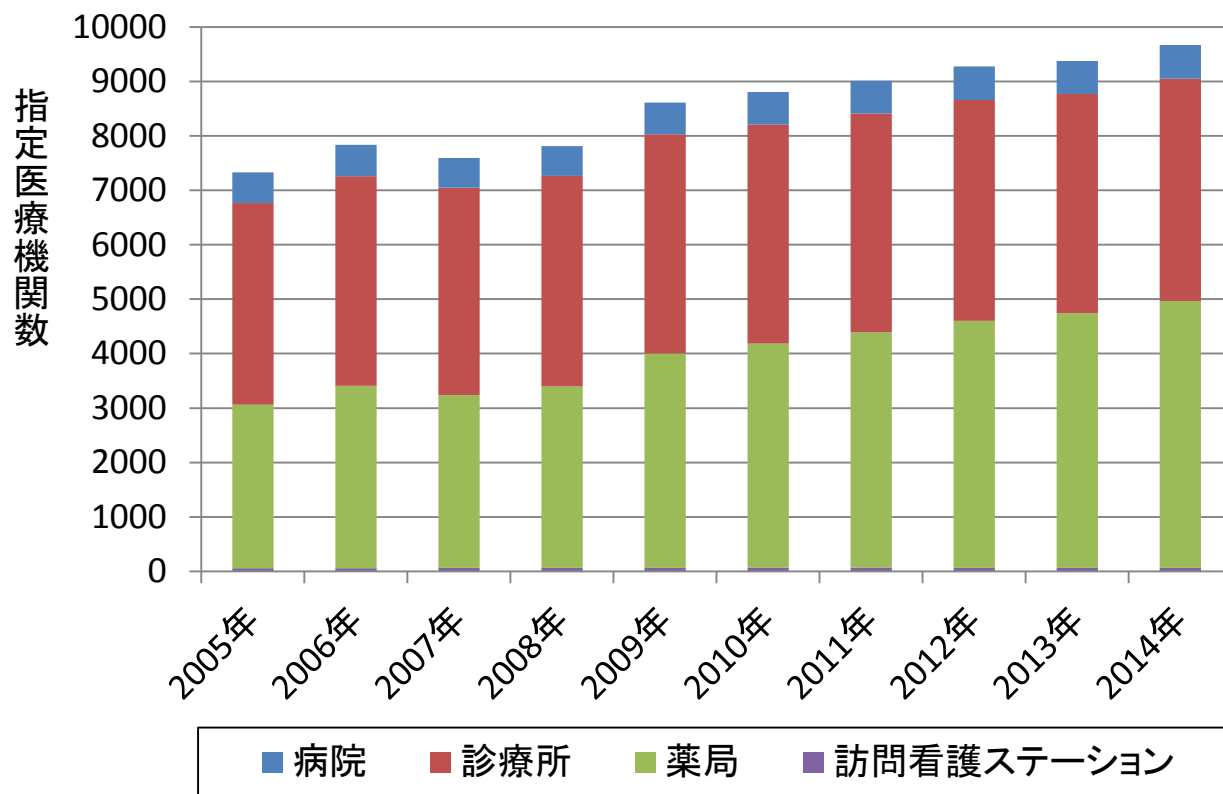
## 《結核指定医療機関数》

平成26(2014)年度末現在において、結核指定医療機関数(総計)は、9,671機関

(右上表の赤枠)

過去10年の年度末現在における指定医療機関数の推移は右下図を参照

| 総数    | 病院  | 診療所   | 薬局    | 訪問看護ステーション |
|-------|-----|-------|-------|------------|
| 9,671 | 615 | 4,089 | 4,905 | 62         |



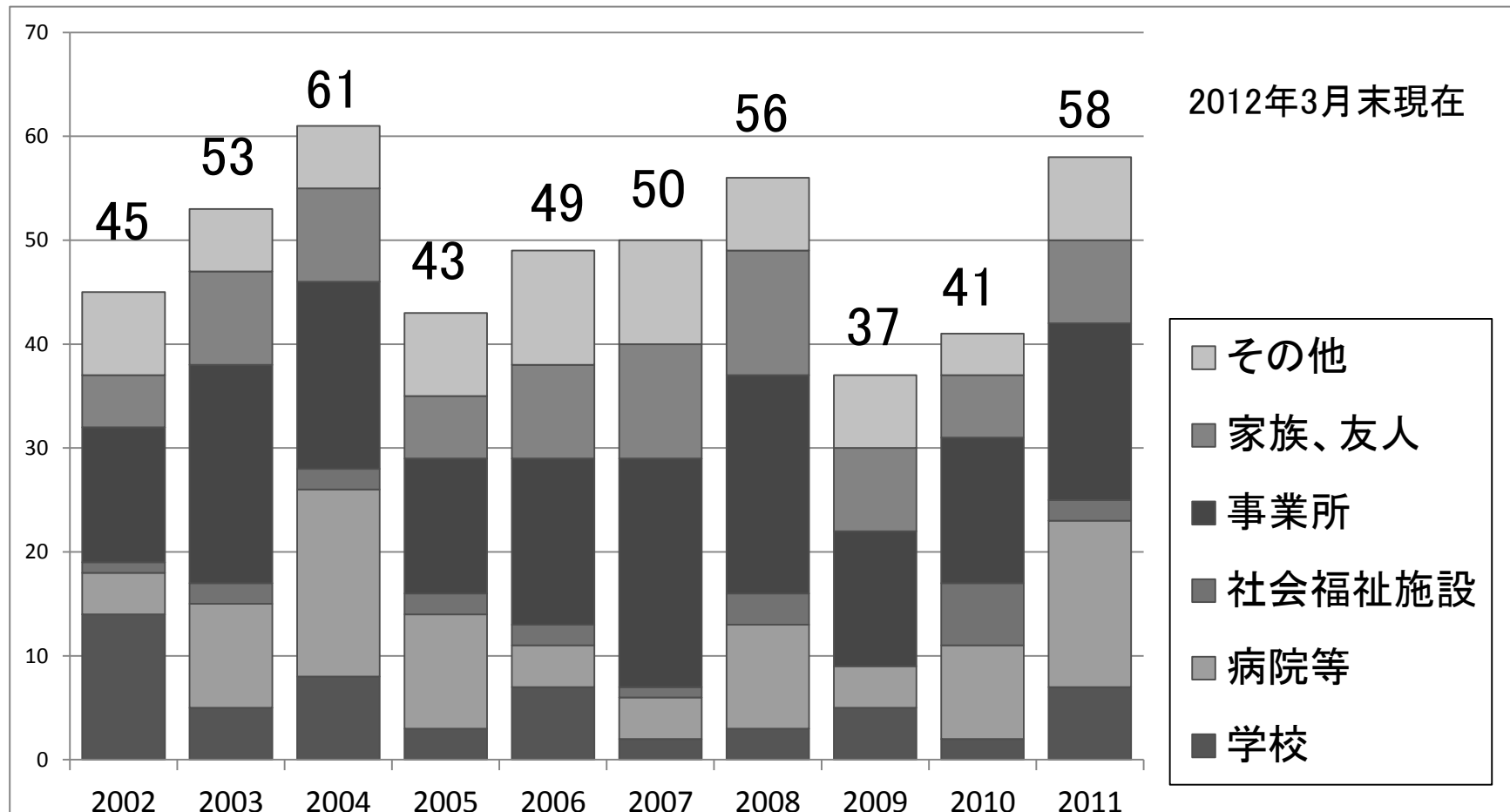
# 結核対策特別推進事業(1)

1. 精神科病院・介護老人保健施設 入所者等結核検診
2. 山谷地域結核 特別対策事業
3. 外国人結核患者治療・服薬支援員制度
4. 日本語学校就学生に対する結核検診



# 集団感染報告数(全国)

\* 事例中、発生場所や集団が複数存在する場合は重複して集計



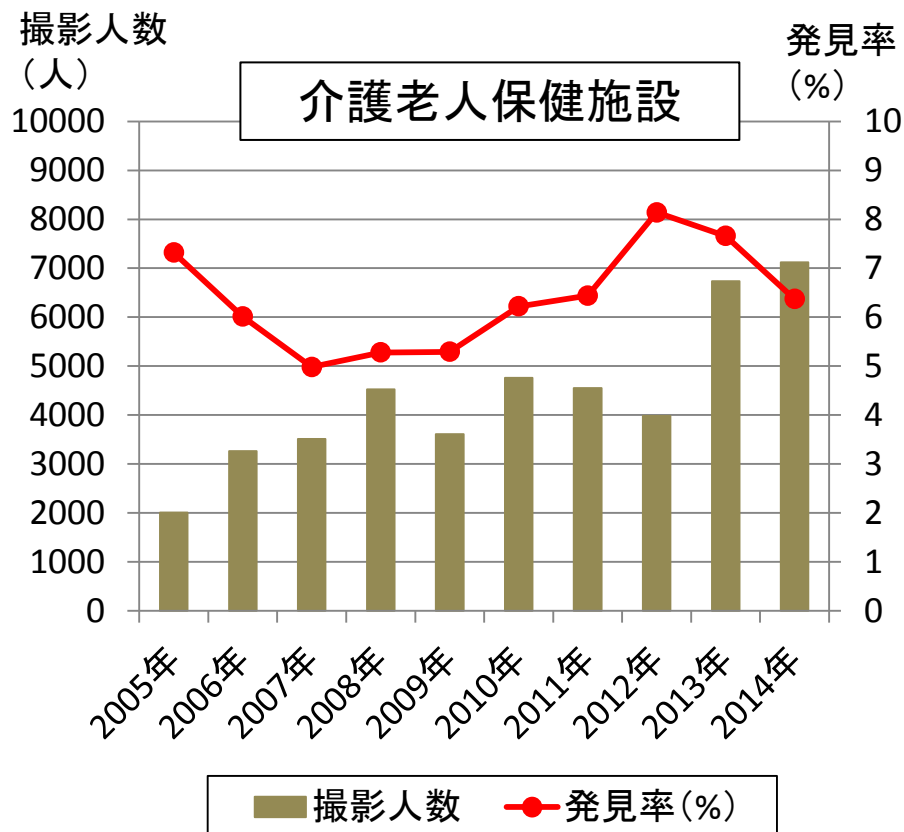
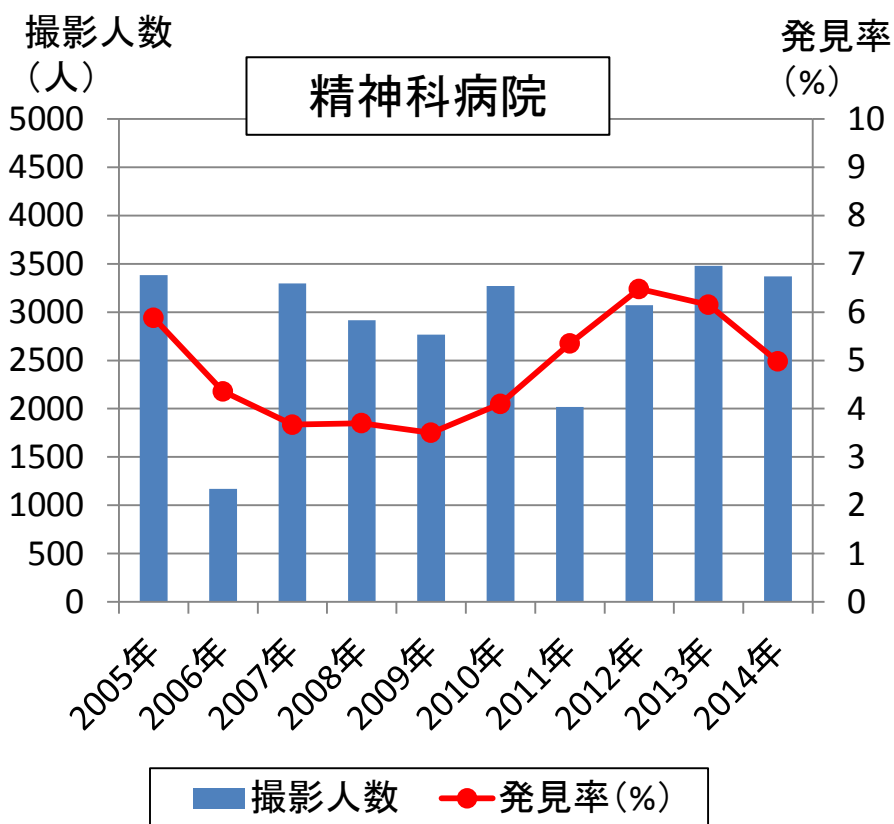
## 集団感染の定義

同一の感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合  
(発病者1人が6人の感染者に相当するとして計算する)

# 結核対策特別推進事業(2)

## 《精神科病院・介護老人保健施設入所者等結核検診》

- 平成26(2014)年には、都内の精神科病院21院において、計3,370人の患者の撮影を実施、有所見者は168人で、発見率は4.98%
- 介護老人保健施設では、85施設において、計7,122人の入所者に実施、有所見者は454人で、発見率は6.37%



# 結核対策特別推進事業(3)

## 《日本語学校就学生に対する結核検診》

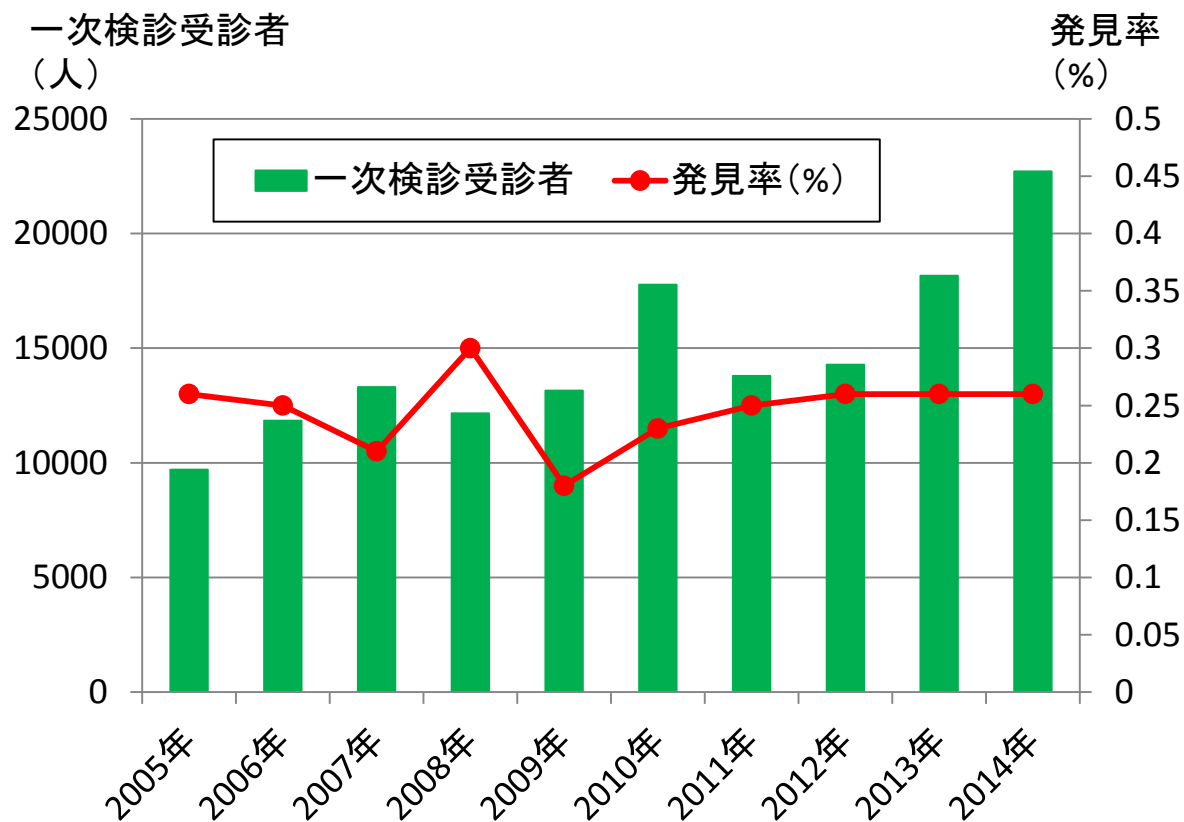
平成26(2014)年には、都内の日本語学校142校\*のうち、検診を希望した113校に在学する学生で、受診を希望した者、計22,716人を対象に実施(一次検診)

(\* 平成26年4月1日現在の一般財団法人日本語教育振興会認定校)

検診結果は、要医療者60人、発見率は0.26%

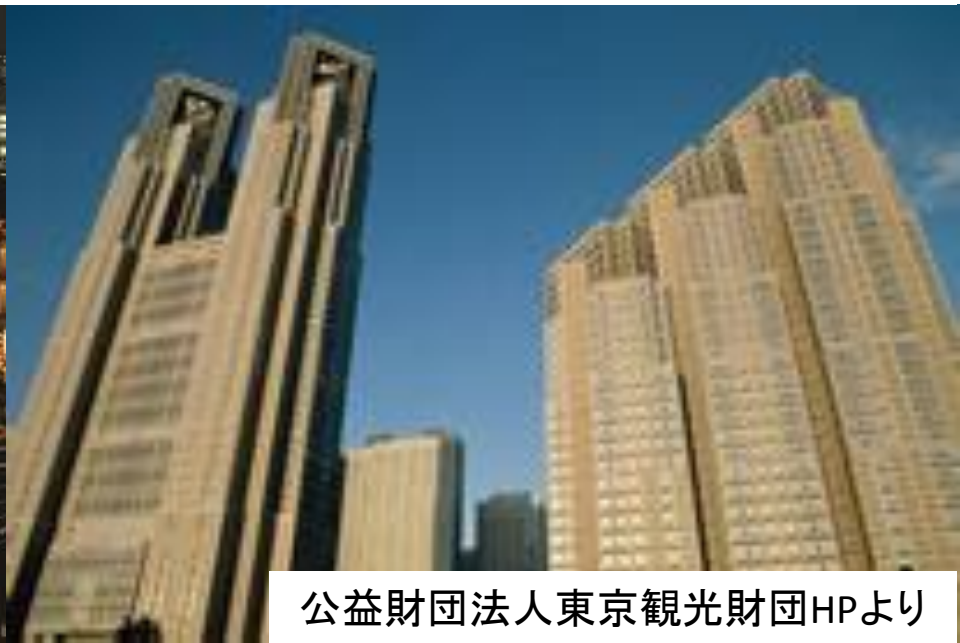
過去10年間の一次検診受診者と発見率の推移は、右下図を参照

| 一次検診受診者(A) | 要精密検診者 | 精密検診受診者 | 要医療者(B) | 発見(A/B) |
|------------|--------|---------|---------|---------|
| 22,716     | 250    | 204     | 60      | 0.26%   |





ご清聴ありがとうございました



公益財団法人東京観光財団HPより